

各STEPを通して

1. STEP1やSTEP2で抽出された自覚的な良さや課題

トップリーダーが園の良さとしている核として、教職員の多数が自園の卒園生や卒園児保護者等で構成されていることで、創立者の教えを、園全体で受け継ぎ、保育実践を行っていることがあげられ、先代の理事長の教えである指導計画に縛られることなく、子どもの姿から学び、子どもの姿から紡ぐ生活が子どもの主体性として保育実践されてきていることを自覚していた。また、担任が3年間持ち上がりであることも園独自の文化として、子どもたちの成長・発達への理解へつながっていた。この点は、STEP2での教職員の声からも同様のことがあげられている。一方、課題としては担任同士での共有はあるものの、全教職員との共有や、保護者との共有の場が少ない点があげられ、働き方に伴う時間の確保が難しい現状があった。また、保育者からは園の良さである子どもの姿から保育を組み立てていくにあたり、子どもの声をどこまで聞けばいいのか、ねらいへの導き方等、今の現状に自信を持っていないことが課題としてあげられ、「主体性」ということへの迷いが感じられた。この点はトップリーダーも保育者のそのとらえ方と実践に対し課題を抱いていた。このたびのECEQ®公開保育は東北地区の地区大会の一環でもあることから、研究テーマが「主体性を育む保育」として研究に取り組みながらのECEQ®であった。

2. STEP4で示された課題（「問い」）

このたびの「問い」は実施園の取組の参考となるよう、自分たち自身が気付いていない子どもの姿や参加者の園ではどうしているのか、新たな視点を得たいとの思いからの「問い」に至った。

（満3歳組）貴園の満3歳児のお子さん方が楽しんでいる遊びを教えてください。

（年少さくら組）本日は、幼児の興味や思いを受け止めながら遊びを広げられるよう環境を設定しました。幼児の姿から気が付いたことを教えてください。また、3歳児一人ひとりに寄り添いながら関わるために気を付けていること、心掛けていることは何ですか。

（年中ぼぶら組）「個」の遊びが、本日行ったようなステージごっこ等の「協同」の遊びへと発展をしていく発達段階にあります。子どもたちの様子をご覧になり、友だちとの関わりの様子で気が付いたことがあれば教えてください。又、クラスの遊びに入らない幼児への具体的な対応のポイントを教えてください。

（年中いちょう組）『友だちへの興味や思いやりの心を育んだり、友だちの良い所に気が付き関わりを深めたりするようになる』というねらいで、今日の活動を計画しました。活動の様子をみて、良かった点と改善点について教えてください。

（年長やなぎ組）本日の活動の中で友だちとの会話が弾み、意欲的に取り組むことを意識して接しています。子どもたちの姿で気が付かれたことを教えてください。又、貴園で幼児が自己表現する為に工夫している環境があれば教えてください。

（年長かしわ組）個々の遊びがクラス全体の遊びへと変化していくために、先週からピンポン玉を加え環境の再構成をしています。子どもたちの声や姿から環境がどのように生かされていたか教えてください。

3. STEP4の参加者からのフィードバックで得た良さや課題

○子どもたちの姿から

・子どもたちが自分の思いや意見を自然にたくさん出し、子どもたちのアイディアにより遊びが発展していたこと。

- ・子どもたちの活動する姿に意欲的な姿勢を感じたこと。
- ・子ども同士の関わりに思いやりのある姿が感じられたこと。家庭的な雰囲気が感じられたこと。
- ・遊びの中にそれぞれの役割が感じられ、これまで培ってきた主体な姿がクラスの空気を形成していること。等、これまで実施園が意識して実践してきたことが、参加者にも伝わりそれが園の良さとしてとらえられていた。

○保育者の姿として、

- ・子どもへの声のかけ方、共感、励まし等の対応に保育者の優しさを感じたこと。
- ・遊びが発展していくように、子ども自らが自由に使うことができる教材が提供されていること。
- ・先生と一緒にという安心感の中でそれぞれの子どもが自己表出できていること。等、保育者がこれまで心がけていることへ共感が寄せられていた。

○一方で意見・課題としては、

- ・遊びに入ることができない子どもへの関わり方や、遊びをリードする子ども以外の様々な子どもとの関わり方
- ・各コーナーの環境設定について
- ・クラスの子どもたちのそれぞれの遊びの面白さや、それぞれの遊びの様子を可視化する工夫等について語られていた。

4. STEP5 において整理された良さや課題並びに課題解決の方策

STEP 5 は、STEP 4 で得た参加者からの意見を各クラスでどのように集約したのか全体で聞き合う時間と、STEP 2 での課題が「共有」ということであったことから、担任、副担任、フリーの立場からそれぞれ今の気持ちを共有し合う時間とした。その中では担任からは①自園の当たり前が自園の良さであることがわかり、自信へつながったこと。②「問うこと」で見えてきた事柄が自分たちの自信へつながっていったこと。③新しい視点が見えたことにより次の日から「やってみよう」という意欲へつながったこと。④「問うこと」を通して、副担任ともいつも以上に話し合い、それぞれの保育観を共有できたこと。⑤自分たち自身が褒められた経験を通し、褒めることの大切さを学んだこと。等、STEP 2 での課題であった「自分たちの自信」をそれぞれがそれなりに得ることができたようであった。また、副担任やフリーの立場からも同様に、⑥公開保育を迎える間に担任と細かに話し合い、多くのことを学んだ。等の意見があがった。このたびのSTEP 5 では、実施園のこれまでの取組に対する多くの自信を得ることができたように思う。その他の保育内での諸課題については、今後新たな視点として保育に活かしていくとの意見を得た。

5. まとめ

初代理事長の確固たる幼児教育への思いが、園の環境に、教職員の姿に、そして保育実践に確かに受け継がれている園であることが、STEP 1、そして STEP 2 を通して、園の良さとして感じられた。またその思いが園内の環境構成等にも色濃く反映されていた。それは教職員のその多数が、園の卒園児であったり、卒園児保護者であることも園の良さとして、園の風土を築いてきた要因であろう。その中で、実施園はこれまでも幼児教育実践学会等でポスター発表を行う等意欲的に研究も続けており、今回の東北大会における ECEQ®公開保育に至っている点は敬意を表するものである。その中に「日々の保育は、担任と子どもたちが創り上げていくもの」という実施園の保育の核が存在しており、「創り上げる」という保育の日常が年間の計画と日々のねらいとどのようにバランスを取りながら実践していくのか、そこに保育者の迷いが見受けられ「問い」とへと繋がっていたようにも思えた。このたびの ECEQ®の実施は、多くの参加者から保育に対する意見をもらうことで、自分たちには見えなかった自園の良さを知り、自分たちには見えなかった新たな視点を得ることができたことは有益であったと思う。

また「共有」という課題があつたが、ECEQ®の STEP を重ねることで、互いに語り合う場面が自然

と生まれ、語り合うことによって互いに理解し合い、それがよい保育へつながることである、そのことへ結びついたことも実施園の収穫であれば嬉しく思う。STEPの初めは点であった事柄が、STEPを重ねることで線となり、公開保育実施により面として広がり、実施園の良さや課題が今後の「主体的な姿」へとつながることを期待したい。

STEP5での「私も『問い』を出したかった」という副担任の言葉が印象的であったが、保育を問い続けることの意義を見出し、問い続けることが保育実践の喜びとなり子どもの育ちへつながるよう指導計画へつなげ、月の、週の、その日の保育実践を豊かにし、創立者の思いに包まれた緑ヶ丘第二幼稚園の新たな歩みとなるようにと願っている。

令和6年12月15日 メインコーディネーター 岡本潤子